



「もったいない」を
減らすために

SDGsのテーマ

つくる責任 つかう責任

- ・ 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

12 つくる責任
つかう責任





企画の意義

家庭の中で、無駄になってしまっているものや使っていないものなどの金額を調べ、その金額で何が出来るかを調べ、無駄なく必要最低限のものを買うようにする。

家庭内で賞味期限が切れてしまい、無駄になってしまったもの

- ・ちゃんぷるハッシュ 2個 (180×2個分)
- ・もずく三杯酢 1個 (90円)
- ・芳醇ゴータ 1個 (240円)



購入したが、家庭内で使用していないもの

- ・ノート5冊 × 5個 (966円 × 5個分)



➡つまり、家庭内で無駄になってしまっているものの総額は、

5,520円

では、この5,520円で何ができたか？

・100円でできることの例・

ポリオから子供を守るためのワクチン **6回分**

重度の栄養不良からの回復に役立つ栄養治療食 **3袋分**

げりですぐに体から水分がなくなって、命を失うことを防ぐ粉（経口補水塩） **14袋**

unicef 

for every child

→5,520円でできること

・ポリオから子供を守るためのワクチンでは **約331回分**

・重度の栄養不良からの回復に役立つ栄養治療食では **約165袋分**

・げりですぐに体から水分がなくなって、命を失うことを防ぐ粉（経口補水塩）では **約772袋分**

（出典：日本ユニセフ協会WEBサイト「ユニセフ募金のゆくえ」）



調べてみて、考えたこと

・無駄にしてしまっているものの総額を計算し、実際どのようなことに使われるのか調べてみると、こんなに多くの支援に使うことができると分かった。

このことから、買い物をするときには必要最低限のものを買い、使いきれないようなものは買わないようにする。そして買ったものは、無駄なく使いきるようにする。

また、食べ物を食べる時には、賞味期限の近いものを優先して食べるように心がけたい。

→「もったいない」を減らすことにつながる